

5 実践例

特別支援教育巡回相談員による学校への訪問や、札幌市研究開発事業「通常の学級における特別支援教育の推進」等における実践例を紹介します。

実践例 1 小学校2年生のAさん

【Aさんの概要】

- 入学当初はさほど目立ちませんでしたが、次第に教室内を立ち歩き、教室から飛び出すことも多くなりました。
- 特に集団で行動することが苦手で、本人によると「周りがうるさくて集中できない」「大きな声で呼ばれるのが嫌だ」などと言います。
- 学校は保護者に理解を求め、教室と一緒に入ってもらうなど、協力は得られていましたが、なかなか状況は変わりませんでした。

〈特別支援教育巡回相談員への相談〉

- 巡回相談員から、Aさんは学習に著しい遅れはないものの、周囲の環境に大変敏感であり、注意集中に課題が見られることから、医療機関や相談機関の活用についてすすめられました。
- 現状は集団参加が難しいので、学びのサポーターなどに協力してもらい、落ち着ける環境での個別学習を行うことがよいのではないかとアドバイスを受けました（ただし、個別学習については、あくまで教室での学習に参加することを目標とした一時的な個別学習です）。また学級では、Aさんが落ち着けるように、座席の位置に配慮するとともに、学級全体で声の大きさについて視覚的な手掛かりを用いながら指導するとよいことを聞き、さっそく実践することにしました。
- 特別支援教育コーディネーターは個別の指導計画を作成することにし、巡回相談員に相談にのってもらいました。

〈学びのサポーターの活用〉

- 落ち着ける部屋での個別学習を中心に、学びのサポーターなどがAさんの支援を行いました。
- 学習の内容は、今後教室での学習に参加することを踏まえて、保護者や学級担任などと綿密に打合せをしながら指導を進めていきました。
- 学びのサポーターとの打合せ不足を補うために、Aさんの様子や対応方法などを記載する連絡ノート（対象児童の様子、気が付いたこと、手だてや対応など）を用意し、効果的に活用しました。

〈学級環境の整備〉

- Aさんの座席を、刺激量を減らし、担任からも声をかけやすい前方の端にしました。
- 声の大きさを6段階に分け、視覚的にも理解しやすいように「ものさし」で表して子どもたちに指導しました。「今は二人で相談だから、1の声でね」等と具体的に指示を出して指導しました。

〈成果と今後〉

- 個別学習であれば集中して学習に取り組んだり、自分の気持ちなどを素直に話したりするようになってきました。併せて、環境を整えた教室での学習にも少しずつ参加するようになっていきましたが、特に個別学習の成果が上がってくるにつれて、教室で学習できることが少しずつ増えてきました。
- その後、医療機関への受診とつながりました。
- 巡回相談員や学びのサポーター、保護者などを加えたケース検討会議を定期的に行い、Aさんへの支援の見直しを行う予定です。

実践例 2

中学校 1年生のBさん

【Bさんの概要】

- 小学校からの引継では、5、6年生の頃から休みがちで、登校してきても別室で過ごすことが多くなってきたとのことでした。また、日常生活におけるこだわりや独り言が見られ、自分の思いどおりにならないときなどは、ドアを蹴飛ばして壊したり、給食の皿を友達に投げつけたりするなどの乱暴な行動がみられていたことから、中学校への入学に際し、保護者も心配をしていました。
- 中学校では、1学期には大きなトラブルなどはありませんでしたが、2学期になって集団での活動の場面がとて多くなったことから、友達とのトラブルや学級に入れられないことが増えていきました。

〈ケース検討会議の開催〉

- 学校が中心になって、スクールカウンセラーやBさんに関わっている相談機関など関係者に呼び掛け、ケース検討会議を開催しました。

ケース検討会議で話われたこと

- Bさんの現状から指導方針・目標を検討しました。
- 相談機関から、Bさんの行動の背景には活動予定が変更になったときなど、気持ちが不安定になっているときが多いこと。保護者（特に母親）の気持ちが不安定なことが多く、朝、イライラしてBさんを叱ってしまったときなどに乱暴な行動がみられることも併せて確認されました。
- 学校はケース検討会議の内容を受けて、小学校から引き継いでいる個別の指導計画の内容を見直した上で（以下、参照）、支援を進めていくことにしました。
- スクールカウンセラーは、主に保護者から話を聞いて、保護者の心配を軽減させるように努めることにしました。
- 相談機関は、定期的に教育相談を実施して、Bさんと保護者の双方から話を聞きながら、行動改善のための目標を評価することにしました。
- ケース検討会議を必要に応じて再度開催することにしました。

Bさんの個別の指導計画（一部抜粋）

長期目標	○学校生活全般において、自分の置かれた状況を冷静に考えて行動できる。 ○相手の言うことを落ち着いて聞いて、内容を理解して行動できる。 ○伝えたい内容を相手に分かるように話すことができる。
手だて （指導方針）	○学習や行事など学校生活に見通しをもてるよう分かりやすく提示する。 ○少しずつ分かりやすく伝えるなど、伝える情報を整理する。 ○友達との関わり方について、冷静な時に具体的に教える。 ○一人一人のよさを認め合う学級集団づくりに努める。
保護者の願い	・周りの友達と仲良く過ごしてほしい。 ・パニックにならず落ち着いて学校生活を送ってほしい。



	短期目標	指導の方法	支援 (担当者)	評価
学習面・行動面	<ul style="list-style-type: none"> 授業に落ち着いて参加ができる。 気持ちの高ぶりを抑えて、自分自身を振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアや小グループでの学習を多く取り入れる。 タイマーなどを活用して作業などの時間の区切りが分かるようにしたり、1日や1週間のスケジュールに見通しをもたせたりする（変更は早めに伝える）。 場の状況にそぐわない発言や質問は控えさせ、後で振り返らせて指導する。 パニックになった時は相談室に移動させ落ち着かせる。冷静になってからパニックの原因等を考えさせる。 	一斉授業担任 教科担任 関係職員 スクール カウンセラー	<ul style="list-style-type: none"> 授業全般に落ち着いて参加できるようになっている。 気持ちを落ち着かせるため自分から教室を出ることが数回あった。 気持ちが落ち着くと自分からその原因を話すことができた。
対人関係・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 友達とトラブルになったときは、その原因を考えることができる。 伝えたい内容を、筋道を立てて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手から受けた行為だけではなく、その状況に至った経緯を考えさせる（必要に応じて相手の生徒も交えて考えさせる）。 いつ、誰が、何をといった具体的なことを質問し、1つずつ落ち着いて考えさせる。 必要に応じて、伝えたい内容のメモを取らせる。 	担任 学年職員 関係職員 スクール カウンセラー	<ul style="list-style-type: none"> 最初は落ち着くまでに時間がかかったが、現在は相手の気持ちや自分の行動を少しずつ振り返ることができるようになってきた。 落ち着いているときには、相手に伝えたいことを話すことができた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 安定した気持ちで過ごすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室などの座席は教師のすぐ前にする。 大切な連絡はメモを取るよう伝える。 グループ学習などで本人が得意とする役割を与えるようにする。 	担任 教科担任	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の動きなどが目に入りにくくなり、落ち着いて過ごせるようになってきた。 教師とのコミュニケーションが図りやすくなった。 口頭だけでは伝わりにくかった内容も伝わるようになった。 自分に自信をもてるようになった。

〈成果と今後〉

- Bさんは乱暴な行動が減るなど、落ち着いて過ごせるようになってきました。
- スクールカウンセラーは、今後も保護者の心配が軽減するよう定期的に面談を続けていくことにしています。
- 相談機関では、今後、進路を含めた相談をする予定です。

実践例 3

小学校 1年生のCさん

【Cさんの概要】

- いつもニコニコとしていて仲の良い友達がいるCさんですが、学習では教師や友達の話の内容を理解するのに時間がかかるようです。
- 保護者はあまり心配していないようですが、平仮名や漢字をなかなか覚えられないことがあるなど、次第に学習面での困りが目立つようになってきました。

〈特別支援教育巡回相談員への相談〉

- 学級担任の先生はCさんの困りに気付き、つまづいている学習内容は何か、どのような支援をしたら理解できるのかを考えながら、個別の支援を行ってきました。
- 少しずつCさんができることは増えてきましたが、今後どのような支援を行っていけばよいか、特別支援教育コーディネーターと一緒に巡回相談員に相談をしました。
- Cさんの授業場面や活動場面の観察、担任からの聞き取りなどを行った巡回相談員から、次の状況にあることを聞きました。

学習面	聞 く	○日常生活に大きな問題はなく、個別の意味理解は概ね良好であるが、時々「はし」→「あし」など似た音を聞き誤ることがある。
	話 す	○全体への指示はうまく伝わっていないことがあり、個別の確認が必要である。
	読 む	○自分からあまり積極的に話す方ではないが、毎日繰り返し行っている活動であれば、自分の言葉で話題に沿って話をするができる。
	書 く	○読める字は増えてきているが、逐次読みであり、行を飛ばして読むこともある。
	計 算	○一度読んだだけでは全体の意味を十分把握するのは困難である。濁音や拗音などの理解も十分ではない。
	推 論	○模写が苦手である。平仮名はほぼ書けるようになったが、思い出すのに時間がかかる文字がある。
行動面	注 意	○漢字はあまり書くことができない。誤字脱字や誤表記が多い。
	集 中	○数の概念の理解はややあいまいである。パターンの計算が分かるとそれを使うことができる。
	対人関係	○文章題は担任がその問題を読み上げるなど、個別に時間をかけて説明すると理解できる。
運動面	粗大運動	○注意が散漫になることはないが、気になるものがあると没頭する傾向にある。
	微細運動	○全体指導の場面で対象に注意を向けることや注意を持続することが苦手である。
生活面	身辺処理	○積極的に参加している。
		○学んだことや理解したルールなどは集団の中でも使おうとしている。
		○休み時間の鬼ごっこなどに参加しているが、ルールを理解していないと思われることがある。
		○なわとびやかけっこなどが平均的にできる。
		○やや不器用さが見られる。
		○描画のテーマは理解しており、線へのこだわり等もないように思えるが、細部までは描くことができずに幼い絵となっている。
		○問題なし

- 特別支援教育コーディネーターや担任は、巡回相談員と今後の支援の方向性について次のように話し合いをしました。

今後の支援の方向性 ○背景 ⇒手だて

- ① 自己肯定感や周囲からの評価の低下を防ぐこと
⇒机上に平仮名五十音表を貼って、確認ができるようにすること。
教科書の巻末ページを見ながら書き写すことなど、本児に適した目標設定とし、課題が達成できるようにすること。
- ② 指示の聞き逃しの機会を少なくすること
○注意を持続することが苦手で、結果的に指示の聞き逃しが多いのではないか。
○没頭傾向が見られるが、注意が向いている時には、全体指示を聞いて行動に移すことが見られている。
⇒注意集中の低さを補う為に、個別の注意喚起をこまめにすること。座席位置も検討が必要かもしれない。
- ③ 視覚的な情報処理に苦手さがあると思われることから、苦手さを補う為の手だてを講じ、支援を受けながら課題に取り組むようにすること。
○どこに注目すべきなのか、何を聞かれているのか、視覚的な情報が多いと混乱するのではないか。
⇒実物投影機と大型テレビなどICT機器を活用して大きく映し出し、聞いていることと、目から見えるものを一致させ、余計な情報を入れないようにする。
注目すべきところ（1画目など）に色をつける。筆順を順に示した教科書の巻末ページを見ながら書く練習をする。
⇒学校で音読する時には指差して文字を追うことや、下敷き等で他の行を隠しながら読むことを行うとともに、家庭で音声教材を活用して教科書を読むことの学習（予習）をしてはどうか。

【音声教材】とは

発達障がい等により、文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けた教材で、パソコンやタブレット等の端末を活用して学習する教材。教科書発行者から提供を受けた教科書デジタルデータを活用しており、ボランティア団体等が製作し、無償で提供されている。音声とテキストが同期し画像も標示される「マルチメディアデジタル教科書」や音声のみの「音声教材BEAM」などがある。

○このような支援の方向性を参考にしながら、個別の指導計画を次のように（一部抜粋）見直して、具体的な支援に取り組みました。

	短期目標	場面	手だて	評価
短期目標と手だて	<ul style="list-style-type: none"> 行を飛ばさずに音読することができる。 指示を聞いて行動することができる。 	学習 学習生活	<ul style="list-style-type: none"> 指さして文字を追うことや下敷き等で他の行を隠しながら読むようにする。 家庭で音声教材を活用して音読の練習をする。 座席を最前列の廊下側にする。 前方の掲示物を目に入りにくいところへ移動する。 個別に注意喚起をしてから話しかける。 	<ul style="list-style-type: none"> たどたどしいが、行を飛ばさずに音読することができるようになっている。今後も手だて等については検討が必要。 注意が持続し、指示を聞いて行動することができるようになってきた。

〈成果と今後〉

- 学習全般に積極的に参加しようとする姿が見られるようになりました。
- 成長は見られるものの、読むことなどに課題や困りがあり、今後もCさんの的確な実態把握と支援の在り方についての継続的な検討が必要です。
- 今後、必要に応じて「学びのサポーター」などの活用を考えていく予定です。